

平成22年度外部研究評価委員会評価結果

基盤的研究部 トキシコゲノミクス・インフォマティクスプロジェクト

評価項目・判定基準		各委員の評点		平均
①進捗度（成果） — 中期計画・年度計画及びその妥当性を 勘案して、当該年度における研究の進 捗状況は十分か。十分な成果を上げて いるか。十分でない場合はどこに問題 があったか。	5：極めて良好である。	3	3	3.4
	4：十分に良好である。	3	3	
	3：概ね良好である。	3	3	
	2：やや不十分であり、努力を要する。	4	4	
	1：極めて不十分である。	5	5	
②研究の学術的意義 — 研究の学術的意義がどの程度あるか。	5：非常にある。	4	3	3.6
	4：かなりある。	4	3	
	3：ある程度ある。	3	3	
	2：あまりない。	4	4	
	1：ほとんどない。	4	4	
③研究の社会的意義 — 研究の社会的意義がどの程度あるか。 また、厚生労働省所管の研究開発型独 立行政法人における研究として、他の 研究機関と比べて特色のある研究か。	5：非常にある。	3	4	3.7
	4：かなりある。	5	3	
	3：ある程度ある。	3	3	
	2：あまりない。	5	5	
	1：ほとんどない。	3	3	
④継続能力 — 研究者の構成や施設の設備等から見 て、研究目的を達成することが可能 か、変更等すべき部分がある場合 には、どのように変更すべきか。	5：非常に高い。	4	4	3.9
	4：高い。	4	3	
	3：平均的である。	4	4	
	2：低い。	4	4	
	1：ほとんどない。	4	4	
⑤成果の普及 — 学術誌への発表、学会等での講演、発 表など成果の公表・普及状況や特許の 出願及び取得状況等はどうか。	5：積極的に取り組んでいる。	4	3	3.1
	4：十分に取り組んでいる。	3	3	
	3：概ね妥当である。	3	3	
	2：やや不十分であり、努力を要する。	4	4	
	1：極めて不十分である。	2	2	
総合評価（5点満点） 【①～⑤の平均点】				3.5

基盤的研究部 総合評価分布《平均：3.7 標準偏差：0.7》

プロジェクト数	総合評価（5点満点）				
	～2.9	3.0～3.4	3.5～3.9	4.0～4.4	4.5～5.0
1	3	2	2	2	2

(参考)

基盤的研究部 各項目の評点分布

評価項目	評点					平均	標準偏差
	1点	2点	3点	4点	5点		
①進捗度（成果）	0	7	17	21	22	3.9	1.0
②研究の学術的意義	0	7	21	28	12	3.7	0.9
③研究の社会的意義	0	4	21	32	11	3.7	0.8
④継続能力	0	8	17	27	17	3.8	0.9
⑤成果の普及	0	12	20	17	19	3.6	1.1

委員からのコメント

評価できる点、推進すべき点

- ・貴重なデータベースができ、今後の問題はそこから生まれるバイオマーカーを現場で利用することにあり、そのための努力を強めてほしい。
- ・着実に進展している。
- ・既存のマーカーと比べて、その感度、特異性において優れたものがどれ位あるのか、その評価が今後問題である。

疑問点、改善すべき点

- ・マーカーが見つければ一つでもよいから、そのマーカーが実用化できるか、直ちに検討する。
- ・重要な課題であるが、何をもちてトキシシティ（毒性）がないとする。
- ・この研究の cost and benefit を考えた時、5年間で35億も使っている意義が見えない。

平成22年度外部研究評価委員会評価結果

基盤的研究部 創薬プロテオミクスプロジェクト

評価項目・判定基準		各委員の評点		平均
①進捗度(成果) - 中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、当該年度における研究の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	5: 極めて良好である。	5	5	5.0
	4: 十分に良好である。	5	5	
	3: 概ね良好である。	5	5	
	2: やや不十分であり、努力を要する。	5	5	
	1: 極めて不十分である。	5	5	
②研究の学術的意義 - 研究の学術的意義がどの程度あるか。	5: 非常にある。	5	5	4.9
	4: かなりある。	4	5	
	3: ある程度ある。	5	5	
	2: あまりない。	5	5	
	1: ほとんどない。	5	5	
③研究の社会的意義 - 研究の社会的意義がどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	5: 非常にある。	4	4	4.3
	4: かなりある。	4	5	
	3: ある程度ある。	5	5	
	2: あまりない。	4	5	
	1: ほとんどない。	4	5	
④継続能力 - 研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	5: 非常に高い。	4	4	4.4
	4: 高い。	5	5	
	3: 平均的である。	5	5	
	2: 低い。	5	5	
	1: ほとんどない。	3	5	
⑤成果の普及 - 学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	5: 積極的に取り組んでいる。	5	5	4.7
	4: 十分に取り組んでいる。	5	4	
	3: 概ね妥当である。	5	5	
	2: やや不十分であり、努力を要する。	4	5	
	1: 極めて不十分である。	5	5	
総合評価(5点満点) 【①～⑤の平均点】				4.7

基盤的研究部 総合評価分布【平均: 3.7 標準偏差: 0.7】

	総合評価(5点満点)				
	~2.9	3.0~3.4	3.5~3.9	4.0~4.4	4.5~5.0
プロジェクト数	1	3	2	2	2

(参考)

基盤的研究部 各項目の評点分布

評価項目	評点					平均	標準偏差
	1点	2点	3点	4点	5点		
①進捗度(成果)	0	7	17	21	22	3.9	1.0
②研究の学術的意義	0	7	21	28	12	3.7	0.9
③研究の社会的意義	0	4	21	32	11	3.7	0.8
④継続能力	0	8	17	27	17	3.8	0.9
⑤成果の普及	0	12	20	17	19	3.6	1.1

委員からのコメント

評価できる点、推進すべき点

- ・極めて active に、かつ大きな研究チームを率いて計画を着実に進めている。
- ・よくがんばっている。着実に進んでいる。
- ・研究は極めて順調に進められている。
- ・有用な成果を充分出されており、高く評価される。
- ・5年間での成果は良い。

疑問点、改善すべき点

- ・一つでも実用化する(企業でよい)。
- ・ナノマテリアルの安全性のチェックが重要。
- ・他のプロテオームプロジェクトとの共同、独立性を明らかにすること。特に共同或いは照会が必要か。

平成22年度外部研究評価委員会評価結果

基盤的研究部 代謝シグナルプロジェクト

評価項目・判定基準		委員の評点		平均
①進捗度(成果) - 中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、当該年度における研究の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	5: 極めて良好である。	2	3	3.2
	4: 十分に良好である。	4	4	
	3: 概ね良好である。	2	/	
	2: やや不十分であり、努力を要する。	3	/	
	1: 極めて不十分である。	4	/	
②研究の学術的意義 - 研究の学術的意義がどの程度あるか。	5: 非常にある。	2	3	2.6
	4: かなりある。	3	3	
	3: ある程度ある。	2	/	
	2: あまりない。	2	/	
	1: ほとんどない。	3	/	
③研究の社会的意義 - 研究の社会的意義がどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	5: 非常にある。	4	3	3.1
	4: かなりある。	4	3	
	3: ある程度ある。	2	/	
	2: あまりない。	3	/	
	1: ほとんどない。	3	/	
④継続能力 - 研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	5: 非常に高い。	3	3	3.1
	4: 高い。	4	4	
	3: 平均的である。	2	/	
	2: 低い。	3	/	
	1: ほとんどない。	3	/	
⑤成果の普及 - 学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	5: 積極的に取り組んでいる。	3	3	2.9
	4: 十分に取り組んでいる。	3	3	
	3: 概ね妥当である。	2	/	
	2: やや不十分であり、努力を要する。	3	/	
	1: 極めて不十分である。	3	/	
総合評価(5点満点) 【①～⑤の平均点】				3.0

基盤的研究部 総合評価分布《平均: 3.7 標準偏差: 0.7》

	総合評価(5点満点)				
	~2.9	3.0~3.4	3.5~3.9	4.0~4.4	4.5~5.0
プロジェクト数	1	3	2	2	2

(参考)

基盤的研究部 各項目の評点分布

評価項目	評点					平均	標準偏差
	1点	2点	3点	4点	5点		
①進捗度(成果)	0	7	17	21	22	3.9	1.0
②研究の学術的意義	0	7	21	28	12	3.7	0.9
③研究の社会的意義	0	4	21	32	11	3.7	0.8
④継続能力	0	8	17	27	17	3.8	0.9
⑤成果の普及	0	12	20	17	19	3.6	1.1

委員からのコメント

評価できる点、推進すべき点

- ・研究の activity は高い。
- ・元気が良い。一生懸命にやっている。
- ・興味深い所見を出されており、展開は期待できる。
- ・S1K2, 3 の解析でそれなりの成果はあがっている。

疑問点、改善すべき点

- ・ちょっと発散しているようにも思えます。多くの共同研究者との management にも注力して、焦点を絞った研究を進められることを期待します。
- ・もっと焦点を絞る。思い込まないこと。専門家との議論を行う。
- ・テーマをフォーカスすべきと考える。
- ・どこかに focus を絞る方が良い。臨床への実用化に向けて(特に神経系)マウスをこえて代謝系の近い実験動物を使うこと。
- ・target が広がりすぎる。何を目的とするのか?

平成22年度外部研究評価委員会評価結果

基盤的研究部 バイオインフォマティクスプロジェクト

評価項目・判定基準	委員の評点	平均	
①進捗度（成果） －中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、当該年度における研究の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	5：極めて良好である。 4：十分に良好である。 3：概ね良好である。 2：やや不十分であり、努力を要する。 1：極めて不十分である。	4 4 4 4 4 4 4	4.0
②研究の学術的意義 －研究の学術的意義がどの程度あるか。	5：非常にある。 4：かなりある。 3：ある程度ある。 2：あまりない。 1：ほとんどない。	4 3 4 4 4 4 3	3.7
③研究の社会的意義 －研究の社会的意義がどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	5：非常にある。 4：かなりある。 3：ある程度ある。 2：あまりない。 1：ほとんどない。	3 4 4 4 4 4 2	3.6
④継続能力 －研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	5：非常に高い。 4：高い。 3：平均的である。 2：低い。 1：ほとんどない。	3 3 5 4 4 4 3	3.7
⑤成果の普及 －学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	5：積極的に取り組んでいる。 4：十分にに取り組んでいる。 3：概ね妥当である。 2：やや不十分であり、努力を要する。 1：極めて不十分である。	4 4 4 4 4 3 3	3.7
総合評価（5点満点） 【①～⑤の平均点】			3.7

基盤的研究部 総合評価分布【平均：3.7 標準偏差：0.7】

プロジェクト数	総合評価（5点満点）				
	～2.9	3.0～3.4	3.5～3.9	4.0～4.4	4.5～5.0
プロジェクト数	1	3	2	2	2

(参考)

基盤的研究部 各項目の評点分布

評価項目	評点					平均	標準偏差
	1点	2点	3点	4点	5点		
①進捗度（成果）	0	7	17	21	22	3.9	1.0
②研究の学術的意義	0	7	21	28	12	3.7	0.9
③研究の社会的意義	0	4	21	32	11	3.7	0.8
④継続能力	0	8	17	27	17	3.8	0.9
⑤成果の普及	0	12	20	17	19	3.6	1.1

委員からのコメント

評価できる点、推進すべき点

- ・研究を自己の内に閉じ込めなくて、wet 系研究者との validation 研究にも力を注がれている点、評価できます。
- ・着実に成果が上げられている。
- ・HCV 複製に関するタンパク質の同定など、具体的成果が出ている。
- ・新しい方法論開発、それに向けた前向きな研究と成果は評価できる。
- ・originality のあるプログラムの開発である。どの位の利用率があるのかを示してほしい。

疑問点、改善すべき点

- ・データベースの「統合」に力点を置くよりも、統合されたデータベースを積極的に取り入れつつ、独自の研究を進められるよう願います。
- ・実用化プロジェクトとブレイクスルー的プロジェクトを実践しながら研究を行うと、良い実績があげられる。
- ・実用化への検証がなかなか容易でないが、どの時点で wet で或いは in vivo で解析するのか、十分な検討が必要。

平成22年度外部研究評価委員会評価結果

基盤的研究部 感染制御プロジェクト

評価項目・判定基準		委員の評点		平均
①進捗度（成果） — 中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、当該年度における研究の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	5：極めて良好である。	4	4	4.7
	4：十分に良好である。	—	5	
	3：概ね良好である。	5	/	
	2：やや不十分であり、努力を要する。	5	/	
	1：極めて不十分である。	5	/	
②研究の学術的意義 — 研究の学術的意義がどの程度あるか。	5：非常にある。	4	4	4.3
	4：かなりある。	—	4	
	3：ある程度ある。	5	/	
	2：あまりない。	5	/	
	1：ほとんどない。	4	/	
③研究の社会的意義 — 研究の社会的意義がどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	5：非常にある。	5	4	4.3
	4：かなりある。	—	4	
	3：ある程度ある。	5	/	
	2：あまりない。	5	/	
	1：ほとんどない。	3	/	
④継続能力 — 研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	5：非常に高い。	4	4	4.2
	4：高い。	—	4	
	3：平均的である。	5	/	
	2：低い。	4	/	
	1：ほとんどない。	4	/	
⑤成果の普及 — 学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	5：積極的に取り組んでいる。	5	5	4.0
	4：十分に取り組んでいる。	—	4	
	3：概ね妥当である。	5	/	
	2：やや不十分であり、努力を要する。	4	/	
	1：極めて不十分である。	4	/	
総合評価（5点満点） 【①～⑤の平均点】				4.4

基盤的研究部 総合評価分布《平均：3.7 標準偏差：0.7》

	総合評価（5点満点）				
	～2.9	3.0～3.4	3.5～3.9	4.0～4.4	4.5～5.0
プロジェクト数	1	3	2	2	2

(参考)

基盤的研究部 各項目の評点分布

評価項目	評点					平均	標準偏差
	1点	2点	3点	4点	5点		
①進捗度（成果）	0	7	17	21	22	3.9	1.0
②研究の学術的意義	0	7	21	28	12	3.7	0.9
③研究の社会的意義	0	4	21	32	11	3.7	0.8
④継続能力	0	8	17	27	17	3.8	0.9
⑤成果の普及	0	12	20	17	19	3.6	1.1

委員からのコメント

評価できる点、推進すべき点

- ・大変順調に進捗している。
- ・全体的に良く研究が進められている。
- ・精力的に研究を展開しており、良い成果を挙げている。
- ・ウイルス(HHV6)の発症、増殖メカニズムの成果はおもしろい。今後の発展が期待される。

疑問点、改善すべき点

- ・ムンプスのワクチンの実用化を目指して欲しい。
- ・in vivo で実用化に向けた実験系の具体が欲しい。

平成22年度外部研究評価委員会評価結果

基盤的研究部 免疫シグナルプロジェクト

評価項目・判定基準		委員の評点		平均
①進捗度（成果） －中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、当該年度における研究の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	5：極めて良好である。	4	5	4.6
	4：十分に良好である。	5	4	
	3：概ね良好である。	4		
	2：やや不十分であり、努力を要する。	5		
	1：極めて不十分である。	5		
②研究の学術的意義 －研究の学術的意義がどの程度あるか。	5：非常にある。	4	5	4.0
	4：かなりある。	4	4	
	3：ある程度ある。	4		
	2：あまりない。	4		
	1：ほとんどない。	3		
③研究の社会的意義 －研究の社会的意義がどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	5：非常にある。	4	4	4.0
	4：かなりある。	4	4	
	3：ある程度ある。	4		
	2：あまりない。	4		
	1：ほとんどない。	4		
④継続能力 －研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	5：非常に高い。	5	5	4.7
	4：高い。	5	4	
	3：平均的である。	4		
	2：低い。	5		
	1：ほとんどない。	5		
⑤成果の普及 －学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	5：積極的に取り組んでいる。	5	5	4.6
	4：十分に取り組んでいる。	5	4	
	3：概ね妥当である。	4		
	2：やや不十分であり、努力を要する。	4		
	1：極めて不十分である。	5		
総合評価（5点満点） 【①～⑤の平均点】				4.4

基盤的研究部 総合評価分布【平均：3.7 標準偏差：0.7】

プロジェクト数	総合評価（5点満点）				
	～2.9	3.0～3.4	3.5～3.9	4.0～4.4	4.5～5.0
1	3	2	2	2	

(参考)

基盤的研究部 各項目の評点分布

評価項目	評点					平均	標準偏差
	1点	2点	3点	4点	5点		
①進捗度（成果）	0	7	17	21	22	3.9	1.0
②研究の学術的意義	0	7	21	28	12	3.7	0.9
③研究の社会的意義	0	4	21	32	11	3.7	0.8
④継続能力	0	8	17	27	17	3.8	0.9
⑤成果の普及	0	12	20	17	19	3.6	1.1

委員からのコメント

評価できる点、推進すべき点

- ・大きな研究体制でもって、activeに研究を進められている点、評価しうる。
- ・順調に進行している。
- ・極めて精力的に良い成果を多く出している。

疑問点、改善すべき点

- ・本研究所のミッションにできるだけ沿うようにする。
- ・基盤研の研究として focus を絞り、ミッションを明確にする。
- ・的を絞って話すべき。

平成22年度外部研究評価委員会評価結果

基盤的研究部 免疫応答制御プロジェクト

評価項目・判定基準		委員の評点		平均
①進捗度(成果) —中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、当該年度における研究の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	5: 極めて良好である。	3	3	3.3
	4: 十分に良好である。	3	4	
	3: 概ね良好である。	3		
	2: やや不十分であり、努力を要する。	4		
	1: 極めて不十分である。			
②研究の学術的意義 —研究の学術的意義がどの程度あるか。	5: 非常にある。	4	3	3.6
	4: かなりある。	4	4	
	3: ある程度ある。	3		
	2: あまりない。	4		
	1: ほとんどない。	3		
③研究の社会的意義 —研究の社会的意義がどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	5: 非常にある。	3	4	3.9
	4: かなりある。	4	4	
	3: ある程度ある。	4		
	2: あまりない。	5		
	1: ほとんどない。	3		
④継続能力 —研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	5: 非常に高い。	3	3	3.4
	4: 高い。	4	4	
	3: 平均的である。	3		
	2: 低い。	4		
	1: ほとんどない。	3		
⑤成果の普及 —学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	5: 積極的に取り組んでいる。	2	2	2.9
	4: 十分に取り組んでいる。	3	4	
	3: 概ね妥当である。	3		
	2: やや不十分であり、努力を要する。	3		
	1: 極めて不十分である。	3		
総合評価(5点満点) 【①～⑤の平均点】				3.4

基盤的研究部 総合評価分布《平均: 3.7 標準偏差: 0.7》

プロジェクト数	総合評価(5点満点)				
	~2.9	3.0~3.4	3.5~3.9	4.0~4.4	4.5~5.0
1	1	3	2	2	2

(参考)

基盤的研究部 各項目の評点分布

評価項目	評点					平均	標準偏差
	1点	2点	3点	4点	5点		
①進捗度(成果)	0	7	17	21	22	3.9	1.0
②研究の学術的意義	0	7	21	28	12	3.7	0.9
③研究の社会的意義	0	4	21	32	11	3.7	0.8
④継続能力	0	8	17	27	17	3.8	0.9
⑤成果の普及	0	12	20	17	19	3.6	1.1

委員からのコメント

評価できる点、推進すべき点

- ・興味あるテーマである。
- ・着実に研究が進められている。
- ・経鼻的免疫における Btk KO マウスの成果は興味深い。
- ・おもしろい研究を行っているが、2年半で論文3編では少なくないか。もう少し、論文を書いてほしい。

疑問点、改善すべき点

- ・研究成果の発表にも注力してほしい。
- ・B1-B cell の characterization function をきちんと明らかにすることが、実用化に向けて不可欠。

平成22年度外部研究評価委員会評価結果

基盤的研究部 免疫細胞制御プロジェクト

評価項目・判定基準	委員の評点	平均
①進捗度（成果） — 中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、当該年度における研究の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	5: 極めて良好である。 4: 十分に良好である。 3: 概ね良好である。 2: やや不十分であり、努力を要する。 1: 極めて不十分である。	2.4
②研究の学術的意義 — 研究の学術的意義がどの程度あるか。	5: 非常にある。 4: かなりある。 3: ある程度ある。 2: あまりない。 1: ほとんどない。	2.7
③研究の社会的意義 — 研究の社会的意義がどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	5: 非常にある。 4: かなりある。 3: ある程度ある。 2: あまりない。 1: ほとんどない。	2.9
④継続能力 — 研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	5: 非常に高い。 4: 高い。 3: 平均的である。 2: 低い。 1: ほとんどない。	2.4
⑤成果の普及 — 学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	5: 積極的に取り組んでいる。 4: 十分に取り組んでいる。 3: 概ね妥当である。 2: やや不十分であり、努力を要する。 1: 極めて不十分である。	2.1
総合評価（5点満点） 【①～⑤の平均点】		2.5

基盤的研究部 総合評価分布【平均：3.7 標準偏差：0.7】

プロジェクト数	総合評価（5点満点）				
	～2.9	3.0～3.4	3.5～3.9	4.0～4.4	4.5～5.0
1	1	3	2	2	2

(参考)

基盤的研究部 各項目の評点分布

評価項目	評点					平均	標準偏差
	1点	2点	3点	4点	5点		
①進捗度（成果）	0	7	17	21	22	3.9	1.0
②研究の学術的意義	0	7	21	28	12	3.7	0.9
③研究の社会的意義	0	4	21	32	11	3.7	0.8
④継続能力	0	8	17	27	17	3.8	0.9
⑤成果の普及	0	12	20	17	19	3.6	1.1

委員からのコメント

評価できる点、推進すべき点

- ・ 基礎的研究として重要な研究である。
- ・ 面白いテーマである。
- ・ 研究は進展している。
- ・ 人エリリンパ節はこれまでの characterization から興味深い phenotype を確認している。
- ・ 論文として結果が出ていない。
- ・ おもしろい発想だが、ヒトに実際に使える方向性がはっきりしない。

疑問点、改善すべき点

- ・ 実績がない。
- ・ 臨床応用の視点が見えない。
- ・ 人エリリンパ節に特異的 character の解析が充分されていない。出口がよく見えない。



平成22年度外部研究評価委員会評価結果

基盤的研究部 遺伝子導入制御プロジェクト

評価項目・判定基準		委員の評点		平均
①進捗度(成果) —中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、当該年度における研究の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	5: 極めて良好である。	5	4	4.9
	4: 十分に良好である。	5	5	
	3: 概ね良好である。	5	/	
	2: やや不十分であり、努力を要する。	5	/	
	1: 極めて不十分である。	5	/	
②研究の学術的意義 —研究の学術的意義がどの程度あるか。	5: 非常にある。	4	4	4.4
	4: かなりある。	5	4	
	3: ある程度ある。	5	/	
	2: あまりない。	4	/	
	1: ほとんどない。	5	/	
③研究の社会的意義 —研究の社会的意義がどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	5: 非常にある。	4	4	4.3
	4: かなりある。	4	5	
	3: ある程度ある。	5	/	
	2: あまりない。	4	/	
	1: ほとんどない。	4	/	
④継続能力 —研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	5: 非常に高い。	4	5	4.9
	4: 高い。	5	5	
	3: 平均的である。	5	/	
	2: 低い。	5	/	
	1: ほとんどない。	5	/	
⑤成果の普及 —学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	5: 積極的に取り組んでいる。	5	5	5.0
	4: 十分に取り組んでいる。	5	5	
	3: 概ね妥当である。	5	/	
	2: やや不十分であり、努力を要する。	5	/	
	1: 極めて不十分である。	5	/	
総合評価(5点満点) 【①～⑤の平均点】				4.7

基盤的研究部 総合評価分布【平均: 3.7 標準偏差: 0.7】

プロジェクト数	総合評価(5点満点)				
	~2.9	3.0~3.4	3.5~3.9	4.0~4.4	4.5~5.0
プロジェクト数	1	3	2	2	2

(参考)

基盤的研究部 各項目の評点分布

評価項目	評点					平均	標準偏差
	1点	2点	3点	4点	5点		
①進捗度(成果)	0	7	17	21	22	3.9	1.0
②研究の学術的意義	0	7	21	28	12	3.7	0.9
③研究の社会的意義	0	4	21	32	11	3.7	0.8
④継続能力	0	8	17	27	17	3.8	0.9
⑤成果の普及	0	12	20	17	19	3.6	1.1

委員からのコメント

評価できる点、推進すべき点

- ・研究を着実に進めている点、高く評価しうる。
- ・着実に成果があがっている。
- ・研究は極めて順調に進められている。
- ・Adベクターの有用性(少なくとも in vitro)を明確に示し、開発が充分に展開している。治療の有効・安全性への step として有用な result となっている。
- ・論文の成果としても良い。

疑問点、改善すべき点

(意見なし)

平成22年度外部研究評価委員会評価結果

基盤的研究部 プロテオームリサーチプロジェクト

評価項目・判定基準		委員の評点		平均
①進捗度(成果) - 中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、当該年度における研究の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。十分でない場合はどこに問題があったか。	5: 極めて良好である。	3	3	3.2
	4: 十分に良好である。	-	4	
	3: 概ね良好である。	2	/	
	2: やや不十分であり、努力を要する。	3	/	
	1: 極めて不十分である。	4	/	
②研究の学術的意義 - 研究の学術的意義がどの程度あるか。	5: 非常にある。	2	3	2.9
	4: かなりある。	-	3	
	3: ある程度ある。	2	/	
	2: あまりない。	3	/	
	1: ほとんどない。	4	/	
③研究の社会的意義 - 研究の社会的意義がどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	5: 非常にある。	3	3	3.3
	4: かなりある。	-	3	
	3: ある程度ある。	5	/	
	2: あまりない。	3	/	
	1: ほとんどない。	3	/	
④継続能力 - 研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か、変更等すべき部分がある場合には、どのように変更すべきか。	5: 非常に高い。	3	2	2.8
	4: 高い。	-	3	
	3: 平均的である。	2	/	
	2: 低い。	3	/	
	1: ほとんどない。	4	/	
⑤成果の普及 - 学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	5: 積極的に取り組んでいる。	3	2	2.8
	4: 十分に取り組んでいる。	-	3	
	3: 概ね妥当である。	2	/	
	2: やや不十分であり、努力を要する。	3	/	
	1: 極めて不十分である。	4	/	
総合評価(5点満点) 【①～⑤の平均点】				3.0

基盤的研究部 総合評価分布【平均: 3.7 標準偏差: 0.7】

プロジェクト数	総合評価(5点満点)				
	~2.9	3.0~3.4	3.5~3.9	4.0~4.4	4.5~5.0
1	3	2	2	2	

(参考)

基盤的研究部 各項目の評点分布

評価項目	評点					平均	標準偏差
	1点	2点	3点	4点	5点		
①進捗度(成果)	0	7	17	21	22	3.9	1.0
②研究の学術的意義	0	7	21	28	12	3.7	0.9
③研究の社会的意義	0	4	21	32	11	3.7	0.8
④継続能力	0	8	17	27	17	3.8	0.9
⑤成果の普及	0	12	20	17	19	3.6	1.1

委員からのコメント

評価できる点、推進すべき点

- ・かなり専門家のアドバイスを受けながら推進すべきである。
- ・実用の技術は高い。
- ・微量タンパク質の解析法開発は評価できる。将来性を期待できる。活発に研究を進めている。

疑問点、改善すべき点

- ・最終ゴールを明確にして研究を進める。
- ・まだ解析準備ができた所で、今後の成果を期待する。
- ・今後の方針をきちんと焦点を絞ること。マーカーを多岐にするのか、研究性のもに focus をあてるのか。
- ・focus を絞るべき。
- ・資金の効果的利用が必要。

平成22年度外部研究評価委員会評価結果

生物資源研究部 細胞資源研究室

評価項目・判定基準		委員の評点	平均	
1. 生物資源業務に係る業績	5 0 : 極めて優れている。 4 0 : 優れている。 3 0 : 概ね妥当である。 2 0 : 劣っている。 1 0 : 極めて劣っている。	35 40 40 45 40	40.0	
2. 生物資源研究に係る業績	①進捗度(成果) -中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、研究の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。	5 : 極めて良好である。 4 : 十分に良好である。 3 : 概ね良好である。 2 : やや不十分であり、努力を要する。 1 : 極めて不十分である。	3 4 3 4 4	3.6
	②研究の学術的意義 -研究の学術的意義はどの程度あるか。	5 : 非常にある。 4 : かなりある。 3 : ある程度ある。 2 : あまりない。 1 : ほとんどない。	3 4 4 4 4	3.8
	③研究の社会的意義 -研究の社会的意義はどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	5 : 非常にある。 4 : かなりある。 3 : ある程度ある。 2 : あまりない。 1 : ほとんどない。	3 3 4 4 4	3.6
	④研究目的達成の可能性 -研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か。	5 : 非常に高い。 4 : 高い。 3 : 平均的である。 2 : 低い。 1 : ほとんどない。	3 3 3 3 4	3.2
	⑤成果の普及 -学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	5 : 積極的に取り組んでいる。 4 : 十分に取り組んでいる。 3 : 概ね妥当である。 2 : やや不十分であり、努力を要する。 1 : 極めて不十分である。	2 4 3 4 3	3.2
総合評価(100点満点) (【1. 生物資源業務に係る業績の評点】と 【2. 生物資源研究に係る業績(①~⑤)の評点】×2)の合計)			74.8	

生物資源部門 総合評価分布【平均：71.4 標準偏差：14.3】

研究室・センター数	総合評価(100点満点)					
	~49.9点	50.0~59.9点	60.0~69.9点	70.0~79.9点	80.0~89.9点	90.0~100点
	1	0	1	1	2	0

(参考)

生物資源部門 各評価項目の評点分布

研究評価項目	評点					平均	標準偏差
	10~19点 1点	20~29点 2点	30~39点 3点	40~49点 4点	50点 5点		
事業評価	1	2	6	16	0	34.8	5.0
①進捗度(成果)	1	2	6	14	2	3.6	0.6
②研究の学術的意義	1	3	5	15	1	3.5	0.6
③研究の社会的意義	0	2	10	7	6	3.7	0.7
④研究目的達成の可能性	0	5	10	9	1	3.2	0.6
⑤成果の普及	0	7	4	13	1	3.3	0.7

委員からのコメント(1. 生物資源業務に係る業績)

評価できる点、推進すべき点

- ・基本的な業務は良く行っている。
- ・社会的に意義ある事業。
- ・品質管理の点でリードしていることは評価できる。
- ・バンクとしての質は高い。
- ・リーダーの交代もスムーズに行われている。Small group にもかかわらず、立派に業務をこなしている。

疑問点、改善すべき点

- ・iPS細胞バンクについては今後、理研BRCとの役割をどうするか、更に戦略を考えた方がよい。
- ・資金を事業として安定して得られるようにすべき。
- ・難病に焦点をあてることはよいが、基盤研のミッション(我国の中でのシェア)を明確にした方がよい。
- ・細胞の供給のシステム化が必要ではないか。
- ・歴史的な経過は考慮しなければならないだろうが、癌だけでなく他の疾患にかかわる創薬開発研究のためのバンク業務にも力を入れて欲しい。

委員からのコメント(2. 生物資源研究に係る業績)

評価できる点、推進すべき点

- ・多大な業務の中でユニークなアプローチがなされている。
- ・事業に結びつく研究がなされている。
- ・iPS細胞などヒト幹細胞などの分与を行うために、その基盤となる研究を行っていることは評価できる。

疑問点、改善すべき点

- ・研究内容の焦点を絞り、成果をしっかりと出すことが必要。
- ・突出した成果は見うけられない。
- ・少人数で多くの業務をこなしているため、研究まで十分に手がまわらないのは気の毒ではあるが、共同研究を活発にすることなどでカバーして欲しい。

平成22年度外部研究評価委員会評価結果

生物資源研究部 遺伝子資源研究室

評価項目・判定基準		委員の評点	平均	
1. 生物資源業務に係る業績	5 0 : 極めて優れている。 4 0 : 優れている。 3 0 : 概ね妥当である。 2 0 : 劣っている。 1 0 : 極めて劣っている。	25 30 10 30 20	23.0	
2. 生物資源研究に係る業績	①進捗度(成果) -中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、研究の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。	5 : 極めて良好である。 4 : 十分に良好である。 3 : 概ね良好である。 2 : やや不十分であり、努力を要する。 1 : 極めて不十分である。	2 3 1 2 3	2.2
	②研究の学術的意義 -研究の学術的意義はどの程度あるか。	5 : 非常にある。 4 : かなりある。 3 : ある程度ある。 2 : あまりない。 1 : ほとんどない。	2 3 1 2 2	2.0
	③研究の社会的意義 -研究の社会的意義はどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	5 : 非常にある。 4 : かなりある。 3 : ある程度ある。 2 : あまりない。 1 : ほとんどない。	3 3 2 3 2	2.6
	④研究目的達成の可能性 -研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か。	5 : 非常に高い。 4 : 高い。 3 : 平均的である。 2 : 低い。 1 : ほとんどない。	3 2 2 3 2	2.4
	⑤成果の普及 -学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	5 : 積極的に取り組んでいる。 4 : 十分に取り組んでいる。 3 : 概ね妥当である。 2 : やや不十分であり、努力を要する。 1 : 極めて不十分である。	2 2 2 2 2	2.0
総合評価(100点満点) (【1. 生物資源業務に係る業績の評点】と 【2. 生物資源研究に係る業績(①~⑤)の評点】×2)の合計)			45.4	

生物資源部門 総合評価分布《平均：71.4 標準偏差：14.3》

研究室・センター数	総合評価(100点満点)					
	~49.9点	50.0~59.9点	60.0~69.9点	70.0~79.9点	80.0~89.9点	90.0~100点
	1	0	1	1	2	0

(参考)

生物資源部門 各評価項目の評点分布

	評点					平均	標準偏差
	10~19点 1点	20~29点 2点	30~39点 3点	40~49点 4点	50点 5点		
事業評価	1	2	6	16	0	34.8	5.0
研究評価項目							
①進捗度(成果)	1	2	6	14	2	3.6	0.6
②研究の学術的意義	1	3	5	15	1	3.5	0.6
③研究の社会的意義	0	2	10	7	6	3.7	0.7
④研究目的達成の可能性	0	5	10	9	1	3.2	0.6
⑤成果の普及	0	7	4	13	1	3.3	0.7

委員からのコメント(1. 生物資源業務に係る業績)

<p>評価できる点、推進すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・霊長類の遺伝子クローニングやcDNAコレクションは評価できる。</li> <li>・難病遺伝子の収集は評価できる。</li> </ul> <p>疑問点、改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒト疾患関連遺伝子の収集、分譲が不十分。</li> <li>・事業としてカニクイザル遺伝子資源の重要性はあると考えられるが、研究や用途の実情に応じられるよう改善する点があると思う。</li> <li>・分譲が直接できるようにする方向性は良い。</li> <li>・このままではカニクイザル遺伝子バンクについては活用されているとは言えない。費用対効果が悪すぎる。</li> <li>・利用状況の把握。</li> <li>・もっとヒトの遺伝子資源に特化した業務を遂行すべきである。研究室の存続の意義が問われている。</li> </ul>
--

委員からのコメント(2. 生物資源研究に係る業績)

<p>評価できる点、推進すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カニクイザルに関する研究は評価できる。しかし当研究室に課せられた本来の研究であるという説明は理解できない。</li> </ul> <p>疑問点、改善すべき点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何をメインに研究を行っているのか分かりにくい。</li> <li>・論文のout putが不足。</li> <li>・責任著者としての公表が少ない。</li> <li>・研究の方向性が明確でない。</li> <li>・大きな研究費を使いながら、意味のあることをやっているとは思えない。Out-of-dateである。</li> <li>・主任研究者の研究業績は多くない。</li> </ul>
---

平成22年度外部研究評価委員会評価結果

生物資源部 実験動物開発研究室

評価項目・判定基準		委員の評点	平均	
1. 生物資源業務に係る業績	5 0 : 極めて優れている。 4 0 : 優れている。 3 0 : 概ね妥当である。 2 0 : 劣っている。 1 0 : 極めて劣っている。	30 40 40 35 30	35.0	
2. 生物資源研究に係る業績	①進捗度(成果) -中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、研究の進捗状況は十分か。十分な成果を上げているか。	5 : 極めて良好である。 4 : 十分に良好である。 3 : 概ね良好である。 2 : やや不十分であり、努力を要する。 1 : 極めて不十分である。	3 4 4 4 3	3.6
	②研究の学術的意義 -研究の学術的意義はどの程度あるか。	5 : 非常にある。 4 : かなりある。 3 : ある程度ある。 2 : あまりない。 1 : ほとんどない。	3 4 4 4 3	3.6
	③研究の社会的意義 -研究の社会的意義はどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	5 : 非常にある。 4 : かなりある。 3 : ある程度ある。 2 : あまりない。 1 : ほとんどない。	3 3 5 3 3	3.4
	④研究目的達成の可能性 -研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か。	5 : 非常に高い。 4 : 高い。 3 : 平均的である。 2 : 低い。 1 : ほとんどない。	2 3 4 2 3	2.8
	⑤成果の普及 -学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	5 : 積極的に取り組んでいる。 4 : 十分に取り組んでいる。 3 : 概ね妥当である。 2 : やや不十分であり、努力を要する。 1 : 極めて不十分である。	2 4 4 4 3	3.4
総合評価(100点満点) (【1. 生物資源業務に係る業績の評点】と 【2. 生物資源研究に係る業績(①~⑤)の評点】×2)の合計)			68.6	

生物資源部門 総合評価分布《平均：71.4 標準偏差：14.3》

	総合評価(100点満点)					
	~49.9点	50.0~59.9点	60.0~69.9点	70.0~79.9点	80.0~89.9点	90.0~100点
研究室・センター数	1	0	1	1	2	0

(参考)

生物資源部門 各評価項目の評点分布

	評点					平均	標準偏差
	10~19点 1点	20~29点 2点	30~39点 3点	40~49点 4点	50点 5点		
事業評価	1	2	6	16	0	34.8	5.0
研究評価項目							
①進捗度(成果)	1	2	6	14	2	3.6	0.6
②研究の学術的意義	1	3	5	15	1	3.5	0.6
③研究の社会的意義	0	2	10	7	6	3.7	0.7
④研究目的達成の可能性	0	5	10	9	1	3.2	0.6
⑤成果の普及	0	7	4	13	1	3.3	0.7

委員からのコメント(1. 生物資源業務に係る業績)

評価できる点、推進すべき点

- ・マウス系統分譲、バンク化などで順調に整備を進めている。
- ・比較的少額の研究費、人員で多くの成果が上げられている。
- ・凍結胚の預かり保存は有効。
- ・二年前に比べると業務も軌道に乗りつつあり、その努力は評価できる。

疑問点、改善すべき点

- ・分譲を増加させる努力が必要。
- ・マウス分譲は少なく、自然疾患モデル特化の方向性をさらに明確にしてはどうか。
- ・恒常的事業費をつけるべき。
- ・今後どのくらいの規模で増やしていくのか？疾患モデルに特化すると考えられるが 将来計画を立てるべきか。
- ・実験動物を扱う研究室で技術補助員が一人で、提案されている業務や研究が遂行できるのか。

委員からのコメント(2. 生物資源研究に係る業績)

評価できる点、推進すべき点

- ・卵巣凍結技術開発やマウス系統プロファイリングは評価できる。
- ・限られた人員の中で、よく努力し成果を出している。
- ・疾患モデル動物、特に自然発症は重要であり、その開発整備に多大な貢献をしている。
- ・今後の成果(共同研究やリソース利用を含めて)が期待される。
- ・少人数で効率よく仕事がなされている。
- ・小規模研究室ではあるが、一定の業績をあげている。

疑問点、改善すべき点

- ・研究が散漫である。

平成22年度外部研究評価委員会評価結果

薬用植物資源研究センター

評価項目・判定基準		委員の評点	平均
1. 生物資源業務に係る業績	50: 極めて優れている。	40	42.0
	40: 優れている。	45	
	30: 概ね妥当である。	40	
	20: 劣っている。	40	
	10: 極めて劣っている。	45	
2. 生物資源研究に係る業績	①進捗度(成果) -中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、研究の進捗状況はどうか。十分な成果を上げているか。	4 4.5 4 4 4	4.1
	5: 極めて良好である。	4	
	4: 十分に良好である。	4	
	3: 概ね良好である。	4	
	2: やや不十分であり、努力を要する。	4	
②研究の学術的意義 -研究の学術的意義はどの程度あるか。	4 4 4 4 4	4.0	
5: 非常にある。	4		
4: かなりある。	4		
3: ある程度ある。	4		
2: あまりない。	4		
③研究の社会的意義 -研究の社会的意義はどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	4 4 5 3 5	4.2	
5: 非常にある。	4		
4: かなりある。	4		
3: ある程度ある。	5		
2: あまりない。	3		
④研究目的達成の可能性 -研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か。	3 5 4 4 4	4.0	
5: 非常に高い。	3		
4: 高い。	5		
3: 平均的である。	4		
2: 低い。	4		
⑤成果の普及 -学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	4 4 4 4 3	3.8	
5: 積極的に取り組んでいる。	4		
4: 十分に取り組んでいる。	4		
3: 概ね妥当である。	4		
2: やや不十分であり、努力を要する。	4		
1: 極めて不十分である。	3		
総合評価(100点満点) 【1: 生物資源業務に係る業績の評点】と 【(2: 生物資源研究に係る業績(①~⑤)の評点) × 2】の合計			82.2

生物資源部門 総合評価分布《平均: 71.4 標準偏差: 14.3》

研究室・センター数	総合評価(100点満点)					
	~49.9点	50.0~59.9点	60.0~69.9点	70.0~79.9点	80.0~89.9点	90.0~100点
	1	0	1	1	2	0

(参考)

生物資源部門 各評価項目の評点分布

研究評価項目	評点					平均	標準偏差
	10~19点	20~29点	30~39点	40~49点	50点		
	1点	2点	3点	4点	5点		
事業評価	1	2	6	16	0	34.8	5.0
①進捗度(成果)	1	2	6	14	2	3.6	0.6
②研究の学術的意義	1	3	5	15	1	3.5	0.6
③研究の社会的意義	0	2	10	7	6	3.7	0.7
④研究目的達成の可能性	0	5	10	9	1	3.2	0.6
⑤成果の普及	0	7	4	13	1	3.3	0.7

委員からのコメント(1. 生物資源業務に係る業績)

評価できる点、推進すべき点

- ・目標の達成度も含め、全般的に良くやっている。
- ・幅広く、それぞれに成果が上がっている。
- ・栽培、品質評価の指針は有用か。
- ・薬用植物データベースについて画像データの収集を進め、公開を開始したことは高く評価される。更なるデータベースの拡大が期待される。

疑問点、改善すべき点

- ・国家戦略との関係が少し見えにくい。産業化への以降が今後あるのか。
- ・国民の間では薬用植物に関する関心が高くなっている。可能であれば、かつて時折行われていた地域住民向けの解説会や講演会を行われてはどうか。

委員からのコメント(2. 生物資源研究に係る業績)

評価できる点、推進すべき点

- ・研究成果の発信にも務めており、全般的に評価できる。
- ・目標をよく達成している。
- ・十分な成果が上げられている。
- ・目立たないが地道な努力を続けている点は評価できる。外部(外国を含む)との共同研究が盛んであることも良い。

疑問点、改善すべき点

- ・組換え植物は我国では十分な注意が必要。

平成22年度外部研究評価委員会評価結果

霊長類医科学研究センター

評価項目・判定基準		委員の評点	平均
1. 生物資源業務に係る業績	5 0 : 極めて優れている。 4 0 : 優れている。 3 0 : 概ね妥当である。 2 0 : 劣っている。 1 0 : 極めて劣っている。	45 45 45 40 45	44.0
2. 生物資源研究に係る業績	①進捗度(成果) —中期計画・年度計画及びその妥当性を勘案して、研究の進捗状況は十分なか。十分な成果を上げているか。	4 4 5 5 4	4.4
	②研究の学術的意義 —研究の学術的意義はどの程度あるか。	3 4 4 5 4	4.0
	③研究の社会的意義 —研究の社会的意義はどの程度あるか。また、厚生労働省所管の研究開発型独立行政法人における研究として、他の研究機関と比べて特色のある研究か。	4 4 5 5 5	4.6
	④研究目的達成の可能性 —研究者の構成や施設の設備等から見て、研究目的を達成することが可能か。	3 4 4 4 4	3.8
	⑤成果の普及 —学術誌への発表、学会等での講演、発表など成果の公表・普及状況や特許の出願及び取得状況等はどうか。	4 4 4 5 4	4.2
総合評価(100点満点) (【1. 生物資源業務に係る業績の評点】と 【2. 生物資源研究に係る業績(①～⑤)の評点】×2)の合計)			86.0

生物資源部門 総合評価分布【平均：71.4 標準偏差：14.3】

研究室・センター数	総合評価(100点満点)					
	～49.9点	50.0～59.9点	60.0～69.9点	70.0～79.9点	80.0～89.9点	90.0～100点
	1	0	1	1	2	0

(参考)

生物資源部門 各評価項目の評点分布

	評価項目	評点					平均	標準偏差
		10～19点 1点	20～29点 2点	30～39点 3点	40～49点 4点	50点 5点		
事業評価		1	2	6	16	0	34.8	5.0
研究評価項目	①進捗度(成果)	1	2	6	14	2	3.6	0.6
	②研究の学術的意義	1	3	5	15	1	3.5	0.6
	③研究の社会的意義	0	2	10	7	6	3.7	0.7
	④研究目的達成の可能性	0	5	10	9	1	3.2	0.6
	⑤成果の普及	0	7	4	13	1	3.3	0.7

委員からのコメント(1. 生物資源業務に係る業績)

評価できる点、推進すべき点
・ 全般的に良くやっている。
・ SPF ギャルの確立は世界唯一の期間であり高く評価できる。
・ 特色を生かして着実に成果が上がっている。共同利用拠点としても十分機能している。
・ 高品質のサルが作製されており、多くのサルが供給されている。この点は高く評価されるべきである。
疑問点、改善すべき点
・ 高品質のサルと自然発症サルモデルを維持し、さらに進めるために運営費や支援体制を強化すべき。
・ 入札制度に関する考慮。

委員からのコメント(2. 生物資源研究に係る業績)

評価できる点、推進すべき点
・ 良くやっているが、テーマによっては他機関との共同研究をより進める必要がある。
・ よく成果を上げている。
・ 特色を生かして、成果が上がっている。
・ 論文も多く成果も出ている。
疑問点、改善すべき点
・ 世界レベルの維持をお願いします。
・ 共同研究でワクチンの開発研究を行っていることは評価できる。但し完成までには多くのハードルがある。長期的な展望を持って研究に臨んで欲しい。